

間違わない補聴器の

選び方 着け方(2)

博士補聴器 代表 由井 宏知ゆい こうち

科学的な判断、調整が満足度の鍵

今回は日本における補聴器の「保有率」と「満足度」が海外の補聴器先進国に比べ半分程度ということをご紹介します。

この原因を理解し改善するために私どもは海外の補聴器先進国で開催されるエキスポや研修会、工場、調整現場見学などに積極的に参加し、補聴器販売や供給システム、考え方における国内外の違いや最新機器などの情報を得るよう努めています。



使用者の主観的な評価を聞きながら、科学的・客観的にきめ細かく調整していく。

そこでもわかる違いの一つが、海外ではより多様な設備や機器を駆使してその調整が正しいのかどうかを科学的根拠に基づいて客観的に判断しているということです。勿論、聴覚は主観的な感覚なので、最適な補聴器選定と調整、好みの音質は個人々人で異なります。

しかし、補聴器を選定理由や使用している補聴器の状態、装用後の効果などについて、目に見える形で情報を提示し説明することが補聴器に対する理解や信頼、



つまりは満足度につながっているのではと考えられます。

科学的／客観的判断のために必要な設備として、私どもが取り入れているものの一部をご紹介します。

1 補聴器特性測定器／実耳測定器 補聴器の性能測定、調整後の補聴器特性測定、耳の穴(外耳道)の特性を計測する装置です。外耳道の容量にも個人差があり、

聞こえにも影響がありますので、より正確な調整を行うために大変重要な装置です。出荷前の性能確認、故障時の点検、装用者の外耳道の特性測定とそれによる細かな調整のため等に使用します。

2 遮音性の高い防音室

補聴器を正しく調整するためには正しく聴力を測定することが最も重要です。また、補聴器調整後もその効果を測定する必要があります。これらは防音室内で行いますが、正確に測定し効果を測るためには防音室に十分な遮音性と広さが求められます。私どもは遮音性の高い鋼製の10㎡サイ

3 オージオメータ 聴力を測定するための装置です。この装置は性能の高さによってタイプ1から5まで分類されており、性能が良いものほど測定できる音の範囲(音の高低、大小の範囲)が広く、精度が細かくなります。私どもは最も高い要求を満たすタイプ1を使用しております。

補聴器の調整は安定するまで頻繁に行う必要があります。使用者の主観的な評価と機械測定による客観的な評価のバランスを取りながら進めていくことが大切です。補聴器は「買う」ことがゴールではなく、手にした時点をスタートと捉え、その後の調整や効果測定、点検なども視野に入れてご検討されるのが良いと思います。

次回補聴器の種類についてご紹介いたします。